

平成24年度 実施メニュー実施結果表

No. 37 (当初計画: No. 39)

東北森林管理局

取組名	安定供給システムによる販売 (継続)	
流域名	久慈・閉伊川流域	
重点事項番号	①-11	
実施箇所及び実施日	管内国有林の保育間伐造林費活用型で生産される素材の中から平成24年度中に販売	
取組の背景及び必要性	流域における地域材の需要・販路の確保、林業事業体の育成、雇用の確保等、木材業界からのニーズ等に対し、安定的に対応する必要がある。	
取組の内容	流域内の集成材・合板工場等への計画的・安定的に販売し、流通・加工体制の整備や林業事業体の育成に努めることを目的に素材を販売。 なお、平成24年度のシステム販売で13,200 m ³ を予定。	
	国有林担当部局・役割	三陸北部森林管理署、局販売課等 需要量の把握 (企画、募集、実行)
	連携協働相手先・役割	流域内集成材工場、合板工場 生産体制の整備、販路の拡大 (購入)
取組の結果、反響、今後の課題等	関係の事業体では、素材需要の安定的な確保ができると好評である。	
PRの実施状況及びその期待する効果	日頃から関係する事業体に対して、システム販売についてPRに務めている。	

平成24年度 実施メニュー実施結果調査表

No. 38 (当初計画: No. 40)

東北森林管理局

取組名	林業事業体等に対する安全作業指導等（継続）
流域名	久慈・閉伊川流域
重点事項番号	③-33
実施箇所及び実施日	岩手県下閉伊郡岩泉町大川字上外山国有林508林班ほか 平成24年8月29日（水）
取組の背景及び必要性	木材生産の効率的な作業システムを確立するために、経済性を確保しつつ丈夫で簡易な構造となる森林作業道作設の現地検討会の要望がある。 また、林業労働災害が発生している中で、労働安全確保を図るために指導等の要請がある。
取組の内容	林業事業体等に対して、宮古労働基準監督署、岩手県沿岸広域振興局等と連携し、「森林作業道づくり現地検討会及び安全作業指導」を実施した。 なお、参加者は130名であった。
国有林担当部局・役割	三陸北部森林管理署 フィールドの提供、資料作成
連携協働相手先・役割	宮古労働基準監督署、岩手県沿岸広域振興局宮古農林振興センター、宮古地方森林組合 (安全指導、現場点検)
取組の結果、反響、今後の課題等	林野庁が進めている低コストで壊れにくい森林作業道作設方法について、実演・実物を見ながら検討会を実施することが出来たと好評であった。また、安全指導では、昨今の林業災害の事例を基に類似災害の防止や作業するうえで必要となる免許や資格についての説明もあり参考となったとの声が多かった。
PRの実施状況及びその期待する効果	プレスリリースを実施したが、会場が市街地から遠いことから、マスコミの取材が少なかった。

【参考資料】

取 組 名 林業事業体等に対する安全作業指導等（継続）



10月29日「森林作業道現地検討会」開会式



10月29日「森林作業道現地検討会」開会式



10月29日「森林作業道現地検討会」



10月29日「森林作業道現地検討会」



10月29日「森林作業道現地検討会」



10月29日「森林作業道現地検討会」



10月29日「安全作業指導」



10月29日「安全作業指導」

平成24年度 実施メニュー実施結果調査表

No. 39 (当初計画: No. 41)

東北森林管理局

取組名	森林観察歩道の整備 (継続)
流域名	久慈・閉伊川流域
重点事項番号	⑥-61
実施箇所及び実施日	岩手県宮古市重茂字鮎山国有林21林班内 平成24年10月27日(土)
取組の背景及び必要性	地域住民から森林の中で森林観察等のフィールドの提供要望が多いことから、森林・林業への理解を深めるためにも、署の管理歩道を森林観察等も実施できるよう整備する必要がある。
取組の内容	一年を通じて森林観察等が可能な宮古市重茂半島国有林内の管理歩道において、森林ボランティア等の協力を得ながら歩道の整備を実施した。 なお、森林ボランティア等の参加者は40名であった。
国有林担当部局・役割	フィールドの事前調査・準備、作業用具の貸出、作業指導
連携協働相手先・役割	地元の森林ボランティア等から歩道整備への協力を得る。
取組の結果、反響、今後の課題等	プレスリリースを実施したが、取材はなかった。
PRの実施状況及びその期待する効果	森林環境教育のフィールドとして使用できると市民から好評であった。

【参考資料】

取 組 名 森林観察歩道の整備（継続）

（10月27日開催）



宮古市重茂の津波被害地海岸から作業へ移動



途中からの眺望（山田湾方面）



作業の様様



作業の様様



作業の様様



集合写真



下山中



皆勤賞へ記念品授与

平成24年度 実施メニュー実施結果表

No. 40 (当初計画: No. 42)

東北森林管理局

取組名	森林環境教育の推進(継続)
流域名	久慈・閉伊川流域
重点事項番号	⑥-61
実施箇所及び実施日	宮古市重茂字鮎山国有林ほか 平成24年度は5回主催
取組の背景及び必要性	森林・林業に対する理解を深めるために、署主催の森林教室や管内の市町村等から森林教室や林業体験等への指導者派遣及びフィールド提供並びに森林教室開催等の要望があることから森林環境教育を推進する意味からも要望に応える必要がある。
取組の内容	<p>① 5月24日 森林・林業講座「春の鯨山～森林観察会～」参加者30名</p> <p>② 5月28日 宮古市立花輪中学校「森林・林業を学ぶ」参加者28名</p> <p>③ 6月1日 宮古市立花輪中学校「植樹体験&森林観察会」参加者28名</p> <p>④ 6月2日 宮古市森林ボランティア育成事業(参加者10名)へ署から指導者3名派遣</p> <p>⑤ 6月9日 田野畑村復校記念等植樹会(参加者30名)へ署から指導者1名派遣</p> <p>⑥ 6月21日 森林・林業講座「早池峰山登山～森林動植物観察会～」参加者30名</p> <p>⑦ 6月21日 宮古市立川井中学校の職場体験 参加者2名</p> <p>⑧ 6月22日 田野畑小学校の「樹木観察会」(参加者26名)へ署から指導者4名派遣</p> <p>⑨ 7月5日 森林・林業講座「下刈体験&森林地図の見方」参加者32名</p> <p>⑩ 7月16日 田野畑村森林愛護少年団の樹木観察会(参加者50名)へ署から指導者1名派遣</p> <p>⑪ 10月8日 宮古市の市民の森づくり事業(参加者110名)へ署から指導者1名派遣</p> <p>⑫ 11月8日 宮古市の森林ふれあい教室(参加者13名)へ署から指導者2名派遣</p>
国有林担当部局・役割	森林教室等の開催、指導者の派遣、フィールドの提供、作業用具の貸出、企画書の作成、自然休養林等の動植物調査等
連携協働相手先・役割	地元の市町村の担当者等、企画書作成等
取組の結果、反響、今後の課題等	<p>参加者からは「森林づくりを学ぶことができた」「森林を伐採することの必要性を知ることができた」「貴重な体験をさせていただいた」等の感想があった。</p> <p>今後においては、地元住民が魅力と感じられるカリキュラムと指導者の養成が課題である。</p>
PRの実施状況及びその期待する効果	新聞社の取材もあり下流域住民に対して、森林・林業・木材産業の普及及び国有林への理解を深めることができた。

【参考資料】

取 組 名 森林環境教育の推進（継続）



5月24日「春の鯨山～森林観察会～」



5月24日「春の鯨山～森林観察会～」



6月21日「早池峰山登山～森林動植物観察～」



7月5日「下刈体験」



7月5日「下刈体験」



7月5日「森林地図の見方」講習

【参考資料】

取 組 名 森林環境教育の推進（継続）



5月28日宮古市立花輪中学校「森林・林業を学ぶ」



5月28日宮古市立花輪中学校「森林・林業を学ぶ」



5月28日宮古市立花輪中学校「木工教室」



5月28日宮古市立花輪中学校「木工教室」



6月1日宮古市立花輪中学校「植樹体験」



6月1日宮古市立花輪中学校「植樹体験」



6月1日宮古市立花輪中学校「森林観察会」



6月1日宮古市立花輪中学校「森林観察会」

平成24年度 実施メニュー実施結果表

No. 41 (当初計画: No. 43)

東北森林管理局

取組名	マスコミ及び下流域住民に対する森林施業等の紹介 (継続)
流域名	久慈・閉伊川流域
重点事項番号	⑥-63
実施箇所及び実施日	岩手県宮古市江繋字早池峰山国有林 平成24年10月5日(金)
取組の背景及び必要性	マスコミ及び関係団体等に対して、国有林野事業の理解と協力を得るために、日頃から森林施業等を紹介する姿勢が必要である。
取組の内容	マスコミ及び宮古漁協女性部(24名)を対象として、午前中は生産請負箇所において間伐作業を見学し、午後からは早池峰山周辺森林生態系保護地域の視察を行った。
国有林担当部局・役割	紹介内容の決定、企画書の作成等
連携協働相手先・役割	宮古漁協女性部では、参加者の募集
取組の結果、反響、今後の課題等	国有林の森林施業等について、照会することができた。
PRの実施状況及びその期待する効果	国有林側から積極的に森林施業等を紹介することにより、国有林野事業等に理解を深めることができた。 マスコミからは、岩手日報の取材があった。

【参考資料】

取 組 名

マスコミ及び下流域住民に対する森林施業等の紹介（継続）



10月5日間伐作業の現場見学



10月5日間伐作業の現場見学



10月5日間伐作業の現場見学



10月5日間伐作業の現場見学



10月5日間伐作業の現場見学



10月5日間伐作業の現場見学



10月5日間伐作業の現場見学



10月5日早池峰山周辺森林生態系保護地域の見学

平成24年度 実施メニュー実施結果表

No. 42 (当初計画: No. 44)

東北森林管理局

取組名	クマタカ等希少猛禽類のモニタリング調査 (継続)
流域名	久慈・閉伊川流域
重点事項番号	⑤-53
実施箇所及び実施日	管内の国有林ほか 平成21年度から平成24年度まで実施
取組の背景及び必要性	クマタカ等の希少猛禽類が餌不足のために繁殖率が低下し、将来における種の存続が危惧される状況にあり、保護団体等から営巣地近くを伐採後の更新時には、猛禽類の餌動物の餌となる適当な樹種の植栽が要望されているところである。しかしながら、三陸地方において猛禽類の餌動物のデータが不足していることから、営巣地に監視カメラ設置等によるモニタリング調査を実施し、猛禽類の生息に効果的な森林施業を検討する必要がある。
取組の内容	クマタカ等について、実際の営巣状況及び営巣地に監視カメラの設置並びに双眼鏡等によるモニタリング調査を保護団体等の協力を得ながら実施した。
国有林担当部局・役割	モニタリング調査、資料のまとめ等
連携協働相手先・役割	地元保護団体等と連携し、モニタリング調査を実施
取組の結果、反響、今後の課題等	モニタリング調査の結果、通常クマタカの餌動物はヤマドリ等の鳥類・ノウサギ等の中小哺乳類等といわれているが、監視カメラによりリスが餌動物の大半であることが分かった。その理由として、営巣地周辺の林況がナラ・クリ等の広葉樹が6割、針葉樹はスギのほかリスの餌となりうる木の実をつけるマツが自生していることによるものであった。これらの結果からバランスのとれた餌動物を供給するために昆虫・野鳥・哺乳類の多様性が必要で、そのためには森林植生の多様性が必要である。 なお、保護団体等からクマタカ等の希少猛禽類の餌不足に対応したモニタリング調査について、評価されている。
PRの実施状況及びその期待する効果	クマタカ等の希少猛禽類の餌動物が判明することにより、三陸沿岸地方の効果的な森林施業の検討及び生物多様性保全に配慮した取組に役立てることができる。